
地域の取り組み・課題集

～ きずなづくりトークのまとめ ～

北上小学校区編

—改訂版—



平成 27 年 3 月

三島市

<p>凡例（各意見に印をつけて、いつ出された意見かわかるようにしています）</p> <p>△：H23.07.08 テーマ「1 地域の防災力向上と被災時の対応」 「2 高齢者から子どもまで多世代の交流による活性化」</p> <p>▲：H23.11.17 テーマ「1 地域の防災力向上と絆づくり～前会の議論を受けて～」 「2 ごみ問題と美しい地域づくり」</p> <p>○：H24.05.29 テーマ「みんなでふれあい創出」時の意見</p> <p>●：H24.10.04 テーマ「地域の防災力～みんなで何ができるか考えよう～」</p> <p>◇：H25.05.30 テーマ「子どもの健全育成と高齢者が安心できる地域づくりについて」</p> <p>◆：H25.10.29 テーマ「子どもの健全育成と高齢者が安心できる地域づくりについて」</p> <p>□：H26.05.30 テーマ「防災訓練」「子どもの健全育成」「高齢者」</p> <p>■：H26.10.16 過去の意見等を参考に関心の高いテーマに絞り、テーマ別のグループ会議を行いました。 テーマ「①地域としての危機管理体制のルールづくりについて考えよう！」(P6 掲載) 「②大人も子どももあいさつしあえる地域、子どもや高齢者が安心して暮らせる地域にするにはどうしたらいいか考えよう！」(P7 掲載)</p> <p>◎：市の意見・回答 ⇒：課題解決に向けた取り組み事例</p>
--

(※担い手略称 自：自治町内会、民：民生委員、子：子ども会、消：消防団、老：老人会、地：地域づくりコーディネーター)

	課題	担い手
防災訓練	<p>①訓練内容</p> <p>◇参加者が多く住民の意識が高い。さらにもう一步、進めてほしい。(第4分団)</p> <p>◆自分たちで出来ることを考え、行政を利用し行動していくといい。</p> <p>□北上小学校区として、統一した防災訓練は実施していない。今後の課題。 →【■①テーマ別会議(P6)に発展】</p> <p>□小中学校を巻き込み、地域全体で訓練ができればいいと思う。</p> <p>⇒◎H26年から、避難所運営訓練を行なうのでぜひ参加してほしい。</p> <p>⇒◎富士山噴火に関しては、周辺市町と連携し対策を協議している。</p>	<p>自・消</p> <p>自・市</p> <p>校区全体</p> <p>市</p>
	<p>②住民・子ども参加促進</p> <p>●参加者の年齢層を広げていきたい。</p> <p>□訓練に参加できない現役世代のため「ネットを使ったコミュニティ」があるといい。ネットを使わない方のことも考え、何かうまく融合したものがないか。</p> <p>□地域には多くの若者がいる。高校生や大学生にも声をかけていきたい。</p> <p>□他市に勤めている三島市民、三島に会社があり働きに来ている方など、三島市外へ向けたリーフレットを作成し、市の防災の取り組み等を発信しては。</p> <p>◎市の防災訓練の情報は「みしまるホットメール」で見られる。登録してほしい。</p> <p>●保護者が参加できないなら、町内会で子どもだけでも集めて訓練を行えるといい。</p> <p>●子どもの防災意識向上のため、小学校での訓練回数を増やす、訓練参加を授業の一環とするなどの工夫が必要。</p>	<p>自</p> <p>小</p>
	<p>③中学生が活躍できる防災訓練</p> <p>◇◆中学生は戦力。訓練では中学生を活用していくといい。</p> <p>⇒◆防災訓練で中学生が活躍。(芙蓉台)</p> <p>□「こういう訓練をやる」と内容をきちんと説明すると、中学生は一生懸命やってくれる。目的意識を持たせることが一番大事。</p> <p>□中学生でも被災地や避難所で活躍できる訓練を、ぜひやって頂きたい。</p> <p>□訓練を1回体験したからといって全てがわかるわけではない。繰り返すことで覚えていく。中学校では避難訓練プラス体験的な学習を取り入れている。</p> <p>□地域でも防災面で中学生を指導し、成長するよう見守って頂きたい。</p>	<p>中</p> <p>自・中</p> <p>自</p>

	課題	担い手
	<p>□中学校で防災指導を行う際に、「大震災が発生したら幼稚園児が逃げてくるので、少し手伝ってもらいたい」といった声かけを、生徒に行なってほしい。中学生は9月頃に幼稚園にボランティアに来ているので、園児に安心感がある。中学校へ避難後、中学生が園児と手をつないでくれるだけでも、安心して保護者を待っていただけるのではないかな。</p>	中・幼
④要援護者の救助	<p>△要援護者名簿をどう扱えばよいかかわからず、困っている。</p> <p>□要援護者救助を具体的にどういう風にすればいいのかわからない。</p> <p>○おせっかいにならないよう周りの家族のことを知り、広がりを作っていくといい。</p> <p>●要援護者の救助方法が課題。救助方法(車椅子の使用など)や、避難所に入りきれない場合の対応を考えたい。</p> <p>◆要援護者リスト・防災マップを活用したい。</p> <p>◆組長、町内会長、民生委員で早めに相談し、膨大な要援護者リストから、本当に救助が必要な人を確実にフォローしたい。</p> <p>□組など小さいコミュニティの中で、誰かが要援護者の見守りを受け持つ必要がある。小さい組織をいくつも作っていくべき。</p> <p>◎「黄色いハンカチ」は、我が家は無事という印。迅速な安否確認ができる。ぜひ各町内で取り組み、訓練時から掲げるよう徹底してほしい。</p> <p>●◇□要援護者は年々増えている。支援者やボランティアが不足している。現役の方が支援者登録をするのは、やはり難しい。中学生の支援ボランティアをもう少し増やし、上手く使っていきたい。</p> <p>⇒◇芙蓉台では独自の防災マニュアルを作成し、要援護者対策実施。</p>	<p>校区全体</p> <p>自</p> <p>自・民</p> <p>自</p> <p>自・中</p>
⑤防災体制の強化	<p>●若手に最低5年は自主防災会に務めてもらうようにしたい。</p> <p>□ある程度、防災組織の長期的な固定化をはかり、専門的にした方が良い。</p> <p>□防災委員は三角巾や応急担架など何か一つでも覚え、訓練時、前に出て指導してほしい。その繰り返しが多くの方を訓練に呼ぶ。</p> <p>◆町内に独立した防災組織を作してほしい。</p> <p>◆災害時の町内会の対応を勉強したい。</p> <p>●火災発生時、住民による初期消火の協力が大事。</p> <p>△停電でも市から情報を発信できるシステムをつくってほしい。</p> <p>△市で被災者の受け入れや仮設住宅についてもっと考えてほしい。</p> <p>◆市職員も、地域の危険個所を把握してほしい。</p> <p>●市は、耐震防火水槽の増加と周知、災害データを提供してほしい。</p> <p>●水門を新設するよりもきちんと管理してほしい。</p>	<p>自</p> <p>消防団</p> <p>自</p> <p>市</p> <p>市</p> <p>市</p>
①挨拶しあう地域づくり	<p>⇒◇スクールガードが子どもの見守りを行い、信頼関係がある。</p> <p>□スクールガードなど地域の大人の見守りが、安全な通学に貢献している。これからは子どもたちを見たら、地域の大人がどンドン声をかけてほしい。</p> <p>◇□挨拶がコミュニケーションのきっかけになっている。日頃からの声かけ、挨拶が大事。挨拶は人と人を結ぶ第一歩。挨拶し合う北上地区になればいい。</p> <p>→【■②テーマ別会議(P7)に発展】</p>	<p>スクールガード</p> <p>校区全体</p>

	課題	担い手
子どもの健全育成	<p>□地域の挨拶運動に対して、市で何らかのお祝い(奨励賞など)をしてもらえれば、やりがいもあるし張り切って取り組めるのではないかな。</p> <p>○子ども達の良さをもっと伸ばしていきたい。地域の皆でほめてあげてほしい。</p> <p>◆大人が率先して子どもの手本となる行動を示したい。(徳倉第5)</p> <p>▲学校の通学路は、防犯的な面でも市で草を刈ってもらいたい。</p>	<p>市</p> <p>校区全体</p> <p>市</p>
	<p>②子どもと地域の交流</p> <p>◇子どもの健全育成は、自分たちで考えて行なうこと。自分たちで仲間を集めて活動を始めれば結果はついてくる。(芙蓉台)</p> <p>◇「子どもは地域の宝事業」について、できれば全員を地域で応援したい。自治会に子どもの情報を教えてほしい。</p> <p>○知らない人同士でも、皆で話しができるような行事を考えることが大切。</p> <p>◆中学生ボランティアは頼りになる。中学生を活用すべき。</p> <p>◇できれば運動会の運営等に中学生の参加をお願いしたい。</p> <p>□体育振興会のイベント時に市長に顔を出してもらえないか。一声かけて頂ければモチベーションもあがる。ぜひご協力をお願いしたい。スポーツを通じて北上地区を盛り上げていきたい。</p>	<p>自</p> <p>子ども会</p> <p>中学生</p> <p>市</p>
	<p>③地域と学校の連携</p> <p>⇒◇中学校校区の町内会長と中学校とで、中学生がどうしたら地域とつながりを持てるか話し合いの場を設けた。</p> <p>○□◆地域の教育力を活かすため、地域のお年寄りを招いていきたい。昔の遊びや野菜作りなど学校の先生より上手な方もいる。そういう方から学ぶ機会を意図的に作ることで、この地域に住んで良かったと思える子どもが育つ。</p> <p>□子どもが身につけるべきこととして、(1)自分の未来を切り開く力、(2)自然環境を考える力、(3)弱者にはいたわり、目上の方には敬う心を持つこと、(4)コミュニケーション能力の4点があると思う。子どもたちにこれらの能力を身につけさせることが、地域の教育力だと思う。</p> <p>○八乙女神社で新しい取り組みを始めたい。例えば、徳倉区の子どもを神社に集めて、神社の祭典を盛り上げていきたい。(徳倉第6)</p> <p>⇒◆中学生が八乙女神社の活動のお手伝いをした。</p> <p>⇒◇◆小学校では地域の方とふれあう機会を設けている。</p> <p>◆学校と家庭と地域が組んで、子ども達を見ていく姿勢が必要。</p> <p>◇PTAからも地域活動へ中学生の参加を促せる。もっと活用して欲しい。</p> <p>◇子育て世代と交流をもち、さまざまな会議で意見を伝えて欲しい。</p> <p>◆子育て・現役世代との、自治会の連絡や情報共有が必要。</p> <p>◇学校に地域コーディネーターに入ってもらい、地域との太いパイプ役になってもらいたい。</p> <p>□北上中学校の2年生148名が十分に活躍できる職業体験場所をぜひ地域で開拓したいと思うので、皆様のご協力をお願いしたい。(地域コーディネーター)</p>	<p>小</p> <p>自</p> <p>中 PTA</p> <p>校区全体</p>

	課題	担い手	
高齢者	①高齢者支援	<p>◇◆お年寄りの多くの経験と知識を、活かせる環境にないのが課題。</p> <p>◇◆お年寄りの芸術祭、シニア文化祭などを実施したい。(萩)</p> <p>◇学校でお年寄りが活躍できる機会があるといいのでは。</p> <p>◆お年寄りに隣近所の地域コミュニティのリーダーを担ってもらい、地域での存在意義を感じてもらいたい。</p> <p>◇活動テーマを提示してほしい。(花いっぱい事業に取り組む等)</p> <p>◎花壇は地域の資産価値の維持や、お年寄りの生きがい・きずなづくりにつながる。自分達で花壇作りの活動を始めてほしい。</p> <p>◇独居高齢者の訪問ボランティアを三島市でもやってほしい。</p> <p>◆月一回食事会を実施。市職員がお年寄りの中に入って一緒に行くから続く。ぜひ市職員の方に食事会に参加してほしい。(芙蓉台)</p> <p>⇒◆自治会(福祉部)による食事会の継続実施。(芙蓉台)</p>	<p>自・老</p> <p>小・中</p> <p>自・老</p> <p>市</p> <p>自・市</p>
	②見守りの協力体制	<p>◆今後、高齢化が進み、地域住民の協力が必要になっていく。地域のつながりを深め、見守りを実施していけるといい。</p> <p>□各自治会でも、高齢者の集まる場づくりをぜひ検討して頂きたい。協力が必要ならば、包括支援センターに声をかけてほしい。</p> <p>□見守りの協力体制が孤独死の発生抑止につながる。</p>	<p>校区全体</p> <p>自</p>
	③老人会の存続	<p>○老人会入会者が少ない。ぜひ老人会に入会してほしい。</p> <p>○老人会と子どもたちがふれあう機会をもっと増やしたい。</p> <p>○地域の方との交流を深め、災害時にはお互いに助け合いたい。</p> <p>◇老人会会員と、お年寄りへの声かけや見守りを重点的に行いたい。</p> <p>⇒◇声かけにより老人会参加者が増加。</p> <p>◇地域とつながりのある老人会でないと新しい方は入ってこない。老人会も積極的に地域行事に参加していきたい。</p> <p>⇒◇老人会と自治会、子ども会が連携。自治会を通じ、子ども会とイベント実施。(徳倉八乙女会)</p> <p>⇒◇第4分団フェスティバルで徳倉八乙女会に手伝ってもらい、きずなが深まった。</p> <p>⇒◇芙蓉台の食事会がきっかけとなり、会に参加した方がいる。(芙蓉会)</p>	<p>老・子</p> <p>老</p> <p>自・老</p> <p>自・老・子</p> <p>老・消</p> <p>自・老</p>
地域の連携	①各団体の組織の把握	<p>◇新役員に地域の体系図を示すことができるといい。</p> <p>◆地域活動関係者が、議論する場があることが大事。</p> <p>◎子ども会に入らない家庭が多くなり、子ども会がピンチになっている状況。自治会でも子ども会のサポートをして頂きたい。</p>	<p>自</p> <p>校区全体</p>
	②住人同士の連携	<p>○町内全体だと模が大きくなってしまっているので、組ごとに食事会などの活動を行うとよいのでは。</p> <p>○今後は参加者に来てもらうだけでなく、こちらから出向いてニュースポーツ等を紹介したい。</p> <p>◇高齢化により水路掃除の参加者が減少。環境整備への影響が心配。</p>	<p>自</p> <p>スポーツ推進員</p> <p>校区全体</p>

■H26. 10. 16 テーマ①「**地域としての危機管理体制のルールづくりについて考えよう!**」

(テーマ①班：参加人数 14人)

●「組単位で高齢者を見守る方法」も含め広い意味で「地域の危機管理体制」について意見を出し合いました。

地域の「**危機**」や「**心配事**」

ってどんなこと?

台風、**火事**、**地震**、**雪**、**泥棒**、**虐待**、**心肺停止**など現象は多数



対策を講じていきたいが...
地域の現状は?

・住人の**危機意識**に**温度差**がある。

⇒**地域間の温度差を無くしたい!**

地域全体でスタートをそろえ、『**自助**』から取り組もう。

- ・名簿をまとめたいが、**個人情報**を出したくない人がいて困る。
- ・**要支援者**の情報。**どこまで公開するか?**⇒判断基準を作る必要があるのでは?
- ・**要支援者**を組単位でどのように支援するのか?
- ・きめ細かな情報がほしい。市のマニュアルには、災害発生時からの時間経過ごとの行動の記載がない。
- ・民生員、消防団など頑張っているが**限界**がある。
- ・ルールがないことで、遠慮してしまう人がいる。
- ・スタートは住民ベースでOK⇒時と場合に添ったシミュレーションをどう広めるか?
- ・町内会長、役員の指導力が求められている。

アクション 「**自助**」を広める為に、
どんな取り組みをしたらよいか?

- ・組全員参加の防災訓練(避難訓練)を年2回実施。
- ・防災訓練に大勢参加させる方法に取り組む。
- ・地域防災訓練への参加と呼びかけ。

これら危機に備えるための
危機管理体制に必要な事とは?

★日ごろのコミュニケーション

・**お互い**が**お互い**を気づかい合う関係づくり

★情報を把握すること

・各家庭に何人いるのか等の把握が必要。

・住人だけでなく、**地域外から働きにくる人**(事業所)、**学生**なども含めた情報もあるとよい。昼、夜の時間滞によって、人の動きが変わる。

⇒住民ベースだけでなく、現実に添ったものが、いずれ必要になってくる。

★連絡網の強化

・各団体同士の**連絡網**を作る。

「**最初の一步**」**温度差を埋める**為に
まずは何から始めよう?



★**子ども会**を**足がかり**に**結びつき**を**強める**

- ・子ども会の参加。子ども会に大人も参加
- ・子どもが動けば親が動く。
- ・子ども会を卒業しても交流がつながる。

★**地域行事**に参加する

- ・各行事参加への呼びかけ。
- (祭り、運動会、河川清掃、自主防、体育振興会、老人会等の行事、スクールガードなど)

★**各組での顔合わせ**

- ・お茶飲み会を開催する
- ・近所とコミュニケーションを大切に/ あいさつから

★**高齢者**を**外に出す運動**

- ・高齢者の居場所作り
- ・11月も掘りハイキング実施
- ・各組での困り事、何でも相談会の開催

- ・**お互い**を知り合うことが、**危機管理**につながる。
- ・「最初の一步」地域全体で**共通認識**(ルール)を持つ。地域全体が一つのキーワードでしっかり結ばれ、そこから色々なことに派生し、体制づくりにつなげていく。

■H26. 10. 16 テーマ②「**大人もあいさつしあえる地域、子どもや高齢者が安心して暮らせる地域にするにはどうしたらいいか考えよう!**」

(テーマ②班：参加人数 9 人)

●地域の心配ごとやあいさつ、きずなを深める方法について皆で話し合いました。

◎**地域の特徴**

- ・道路が狭い
- ・朝、夕の交通量が多い
- ・道がたくさんある

★**通学路の心配**

- ・子どもが毎日違う道を下校するので、いざという時が不安

★**交通の心配**

- ・交通事故が多い
- ・若年層の信号無視
- ・制限速度違反
- ・ちょっとした交通事故があっても知らない人だと対応が遅れる

★**犯罪に巻き込まれる心配**

- ・路地に入ると暗いところが多い
- ・子どもが1人遊びをしているのを見かける
- ・子どもを狙う犯罪
- ・地域の方かどうか知らない人が近所で散策(不審者)

夜間、もう少し町内を明るくしてほしい

★**あいさつしない理由は?**

- ・遠慮している
- ・年をとると閉鎖的になる
- ・男同士はあいさつ難しい(女性は案外できている)

☆**あいさつできている場所**

- ・小中学生はしっかりあいさつしている
- ・小学校ではあいさつの啓発活動実施
- ・ゴミだしや出勤時(3丁目)
- ・都会に比べればあいさつできている

★**隣の人との交流がない**

- ・運動会に来るメンバーはほぼ一緒
- ・行事があっても組の人がひとりも来ない/閉鎖的
- ・地区の大人があいさつしない

市で組会を開催するような指示を出してほしい

■**組会が大事**

- ・組会ができる社会になれば、あいさつもできるようになる

■**組会に皆が参加するには?**

- ・基本はあいさつ(あいさつがないと組会に参加しない)
- ・ただ集まるのではなく、協議するテーマを決める
例:ゴミ集め、子どもの状況など

■**あいさつが大事**

- ・あいさつは全ての基本
- ・学校の規律はあいさつから
- ・あいさつは相手の心を開く

■**あいさつできる地域にするには?**

- ・まず家庭から(基礎)
- ・遠慮しない
- ・ご近所のデータを持つ
- ・まず子ども/若者からあいさつを浸透

■**あいさつの極意**

- ・先手必勝/自分から声掛け
- ・積み重ねが大事(スクールガード 8 年かけて、あいさつが定着)
- ・長いスパンで考える
- ・子ども⇒その家族へと広げていく

■**地域の役割はどんなこと?**

- ・学校+家庭+地域で協力(家庭ができないことを学校、地域がフォロー)
- ・子どもにやっていいこと、悪いことを教える
- ・あいさつするよう、子どもをしかることも大事
- ・イベントに参加する
- ・お互いに顔を覚える
- ・若い人の「自分さえよければ/関わりたくない」という発想を変えてもらう(昔の地域のきずなが良かった頃のことを若い世代に教える)

若い人が住みたくなるような地域を作ることが大事!

補足資料

きずなづくりトークの意見まとめ

これまでの「きずなづくりトーク」で皆さんから出していただいた地域の現況・課題を整理しました。

※平成 23～26 年度 北上小学校区きずなづくりトーク参加団体一覧

自治（町内）会	各種団体	幼・小・中・PTA
徳倉第 5 自治会 徳倉第 6 町内会 萩町内会 エンゼルハイム芙蓉台自治会 芙蓉台自治会 徳倉第 3 町内会（※23 年度参加/現在は徳倉小学校区）	保健委員会 民生委員児童委員協議会 環境美化推進委員会 消防団第 4 分団 スクールガード エコリーダー 地域包括支援センター 地域づくりコーディネーター 保護司会	私立しらゆり幼稚園 私立ピーターパン幼稚園 北上小学校 北上小学校 P T A 北上中学校 北上中学校 PTA 三島市 PTA 連絡協議会 学校支援地域本部
老人クラブ	スポーツ関係	子ども会
徳倉八乙女会 芙蓉会	北上小学校区体育振興会 スポーツ推進委員会 体育指導員会 体育振興会	せぎ子ども会 萩子ども会 子ども会連合会

（平成 23 年度は「地域づくり市民会議」の名称で開催しています）

凡例（各意見に印をつけて、いつ出された意見かわかるようにしています）
 △：H23.07.08 テーマ「1 地域の防災力向上と被災時の対応」
 「2 高齢者から子どもまで多世代の交流による活性化」
 ▲：H23.11.17 テーマ「1 地域の防災力向上と絆づくり～前会の議論を受けて～」
 「2 ごみ問題と美しい地域づくり」
 ○：H24.05.29 テーマ「みんなでふれあい創出」時の意見
 ●：H24.10.04 テーマ「地域の防災力～みんなで何ができるか考えよう～」
 ◇：H25.05.30 テーマ「子どもの健全育成と高齢者が安心できる地域づくりについて」
 ◆：H25.10.29 テーマ「子どもの健全育成と高齢者が安心できる地域づくりについて」
 □：H26.05.30 テーマ「防災訓練」「子どもの健全育成」「高齢者」
 ■：H26.10.16 過去の意見等を参考に関心の高いテーマに絞り、テーマ別のグループ会議を行いました。
 テーマ「①地域としての危機管理体制のルールづくりについて考えよう」（P6掲載）
 「②大人も子どももあいさつしあえる地域、子どもや高齢者が安心して暮らせる地域にするにはどうしたらいいか考えよう」（P7掲載）
 ◎：市の意見・回答

※担い手略称 スポ推委:スポーツ推進委員、地域CN:地域づくりコーディネーター

	現況	課題	担い手	結果・実績
1. 防災訓練				
①訓練内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ●坂道でも使える担架を、11 個購入した。(芙蓉台) ●避難所の生活スペースを、実際に体験した。(徳倉第5、徳倉第6) ◆行政の指導で、水の確保、簡易トイレの準備を進めている。(芙蓉台) □北上小学校区として、統一した防災訓練は実施していない。 □富士山噴火に対して、個々の理解がまちまち。市では噴火の対応についてどういったスタンスを持っているのか伺いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇訓練参加者が多く住民の意識が高い。さらにもう一步、進めてほしい。(第4分団) ◆自分たちで出来ることを考え、行政を利用し、行動していくといい。 □大災害が起きた場合、避難所運営訓練をしていないのは問題。今後の課題だと思う。 □小中学校を巻き込み、地域全体で訓練ができればいいと思う。 ◎今年度、避難所運営訓練を行なうのでぜひ参加してほしい。 ◎富士山噴火に関しては周辺市町と連携し、対策を協議している。地震と異なり、噴火は観測や衛星などで予知できるので、噴火しそうな時はその時点で対策をとることになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 校区全体 自治会 市 市 	<ul style="list-style-type: none"> ⇒◆自治会と行政の連携がある。 ⇒◎富士山噴火に関しては、周辺地域で対策を協議。
②住民の参加促進				
	<ul style="list-style-type: none"> ●防災訓練では若手が育っていない。訓練に参加する人は同じ顔ぶれになってしまう。 □商売人なので、行事が土日になると参加できない。子ども会の行事や、地域の訓練、地域の清掃なども参加できず、迷惑をかけてしまう。 □中学生以上の方(高校生、大学生)、外国から来ている方、地域に下宿されている方もいる。そういった方も防災に参加したらいいのではないか。 ●保護者は、なかなか時間が取れないので、軌道に乗るまで、保護者ではなく、小学校主導で防災対策を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●参加者の年齢層を広げていきたい。 □訓練に参加できない現役世代のため「ネットを使ったコミュニティ」があるといいのでは。ネットを使わない方のことも考え、何かうまく融合したようなものがあるといい。 □今後、高校生や大学生にも声をかけていくことを検討している。 □他市に勤めている三島市民、三島に会社があり働きに来ている方など、三島市外へ向けたリーフレットを作成し、三島市の防災の取り組み等を発信するのいいのではないか。 ◎市の防災訓練の情報は、「みしまるホットメール」で見られるようになっていて、そこに登録していただきたい。 ●町内会で子どもだけでも集めて訓練を行えるといい。 	<ul style="list-style-type: none"> 自治会 自治会 自治会 	

現況	課題	担い手	結果・実績
<ul style="list-style-type: none"> ●小学生には避難経路を確認させた。高学年は講師を招き、DIG(図上訓練)で、地域の防災施設を確認した。 ●訓練に参加した子ども達の意識は、「訓練をした」という程度に留まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●小学校で訓練回数を増やし、半強制的に参加させてほしい。 ●小学生は授業の一環として訓練に参加させてほしい。 	小学校	
③中学生が活躍できる防災訓練			
<p>◇今年の1年生は、総合の時間にAEDや心肺蘇生法を学ぶので、防災訓練で活かせると思う。(北上中)</p> <p>□芙蓉台では、中学生に色々ボランティアをお願いしている。仕事の内容をはっきりさせ責任を持たせると、中学生は活躍できる。</p> <p>□東日本大震災が発生した年、中学一年の息子が「夏休みに被災地でボランティアしたい」という希望を持っていた。</p> <p>□北上中学校でも、中学生が活躍できる訓練について日ごろから考えている。地域の訓練には必ず参加するよう話してきた。今年の2年生は1年生の時に宿泊訓練を行い、担架の運搬、AEDの使用方法、心肺蘇生の仕方など、消防署の方にレクチャーしてもらっている。</p> <p>□ピーターパン幼稚園は北上中学校が第2避難所になっている。年1回中学校への避難訓練を実施しているが、防災頭巾をかぶりよたよた歩く園児146名を、職員14名で避難させることはとても大変。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆防災訓練で中学生は大きな戦力になった。訓練では中学生を活用していくといい。(芙蓉台) □「こういう訓練をやる」と内容をきちんと説明すると、中学生は一生懸命やってくれる。目的意識を持たせることが一番大事。 □中学生でも被災地や避難所で活躍できる訓練を、ぜひやって頂きたい。 □1回体験したからといって全てがわかるわけではない。色々な場で訓練を繰り返しやりながら覚えていけばいい。そう考えて、中学校では避難訓練プラス体験的な学習を取り入れている。 □地域でも防災面で中学生を指導し、成長するよう見守って頂きたい。 □中学校で防災指導を行う際に、「大震災が発生したら幼稚園児が逃げてくるので、少し手伝ってもらいたい」といった声かけを、生徒に行なってほしい。中学生は9月頃に幼稚園にボランティアに来ているので、園児に安心感がある。中学校へ避難後、中学生が園児と手をつないでくれるだけでも、安心して保護者を待たせられるのではないかと。 	<p>中学校</p> <p>中学校</p> <p>自治会</p> <p>中学校 幼稚園</p>	⇒◆防災訓練で中学生が活躍。
④要援護者の救助			
<p>○高齢者や障害者の状況は頭に入っている。具体的に何をしていくかは検討中。(徳倉第6)</p> <p>●避難する際、組長が自分の組の要援護者の安否確認実施。(徳倉第5、芙蓉台)</p> <p>◆高齢者の災害時の対応を、町内で相談している。(徳倉第6)</p> <p>◆要援護者には各組で対応するが、話し合いが不十分。(萩)</p> <p>□「黄色いハンカチ作戦」は、その家に動ける人がいないとハンカチを玄関に掲げられない。</p>	<p>△要援護者名簿をどう扱えばよいかかわからず、困っている。</p> <p>□要援護者の救助については、具体的にどういう風にすればいいのかわからない。</p> <p>○おせっかいにならないよう、周りの家族をよく知って広がりを作っていくといい。</p> <p>●要援護者の救助方法が課題。</p> <p>●要援護者を車椅子で連れて行く事例もある。要援護者の救助方法や避難所に入りきれない場合の対応を考えたい。</p> <p>◆要援護者リスト・防災マップを活用したい。</p> <p>◆組長、町内会長、民生委員で早めに相談し、膨大な要援護者リストから、本当に救助が必要な人を確実にフォローしたい。</p> <p>□組など小さいコミュニティの中で、誰かが要援護者の見守りを受け持つ必要があるのではないかと。それには大きい組織ではなく、小さい組織をいくつも作っていく必要があると思う。</p>	<p>校区全体</p> <p>自治会 自治会</p> <p>自治会</p> <p>自治会 民生委員</p>	

現況	課題	担い手	結果・実績
<p><芙蓉台の要援護者対策></p> <p>◇行方不明者が出たことをきっかけにマニュアル作成。翌年、準備委員会をたて防災マニュアル作成。スタート時は、自治会長と民生委員で要援護者の登録を行った。</p> <p>□芙蓉台では要援護者登録や支援ボランティアを立ち上げ、今年で5年目になる。現在、要援護者の登録は28名。日ごろから見守りを行っている。</p> <p>◇震度5以上の場合、各5グループが安否確認をし、救助が必要な場合は本部に連絡する。</p> <p>◇毎月一回、事務局会議実施。民生委員、自治会長などで様々な問題を協議する。担架や黄色いリボンの用意などを行っている。</p> <p>◇支援ボランティア会があり、中学生6名を入れて66名登録されている。</p> <p>□災害発生時、支援ボランティアは要援護者の安否確認をして、救助要請があった場合に本部に連絡し、本部から人を出すというルール作りをしている。一人で支援するのは難しいので、支援者を5グループに分け、5～6人の要援護者に対し、10～15人ほどの支援ボランティアを配置している。</p>	<p>◎「黄色いハンカチ」は、我が家は無事という印。迅速な安否確認ができる。ぜひ各町内で取り組み、訓練時から掲げるよう徹底してほしい。</p> <p>◎要援護者は一人暮らしの高齢者、障害のある方。民生委員が調査し、要援護者リストを作成している。リストは「救助を必要としている方」、「救助を必要としていない方」の2つある。「救助を必要としている方」については、町内でサポート計画を立てることになっている。ぜひ芙蓉台の取組みを参考にしてほしい。「救助を必要としていない方」のリストは封をしており、災害が発生した場合に安否確認に活用してほしい。</p> <p>□支援者やボランティアが不足している。現役の方が支援者登録をするのは、やはり難しい。</p> <p>●◇要援護者は年々増えている。中学生ボランティアをもう少し増やし、上手く使っていきたい。</p>	<p>自治会</p> <p>自治会 中学生</p>	<p>⇒◇芙蓉台では独自の防災マニュアルを作成し、要援護者対策実施。</p>
<p>⑤防災体制の強化</p>			
<p>△情報不足が一番不安。ライフラインが断たれ電話も通じない場合、避難所や火事の情報などが必要。放送設備がない町内もある。</p> <p>◆避難指示が発令された場合の組長への指示、消防団との連絡、市との連絡等、具体的な動きがわからない。(徳倉第5)</p> <p>△茨城の視察を行なったが、町内会がしっかりしているかどうかで、ボランティアの受け入れ・活用でも差が出てしまうと感じた。</p> <p>▲今年の役員の慰安旅行は、県地震防災センターへ行く予定。できれば来年からも継続的に行なっていきたい。</p> <p>●□自主防災の役員任期が1年で終わるのが早すぎる。専門的な知識の積み重ねがない。</p> <p>□防災委員は現役世代なので、時間を割いて集まり専門知識を習得していくことは相当厳しいことだと思うが、長い期間頑張ってもらいたい。</p> <p>□第4分団は、8月に実施している地域の防災委員向け講習などを通して、防災委員が訓練で何らかの役割を果たすようお願いしてきた。</p>	<p>△停電になっても市から情報を発信できるようなシステムをつくってほしい。</p> <p>◆災害時の町内会の対応を勉強したい。</p> <p>△市としても被災者の受け入れや仮設住宅について、もっと考えてほしい。</p> <p>●若手に最低5年は務めてもらうようにしたい。</p> <p>□ある程度、組織の長期的な固定化をはかり、専門的にした方がいいのではないかと思う。</p> <p>□防災委員は三角巾や応急担架など何か一つでも覚えて、訓練時、前に出て指導してほしい。その繰り返しだが、多くの方を訓練に呼ぶと思う。訓練の参加者の中から「消防団は無理でも防災委員はやれる」という若い方が出てきてくれればいい。</p> <p>◎県で行なっている「防災士養成講座」に町内から参加する場合、補助金が出る。また、市ではより簡便な防災講座を行っている。ぜひ受講して頂きたい。</p>	<p>市</p> <p>市</p> <p>自治会</p>	

現況	課題	担い手	結果・実績
<p>◆自治会役員は1年交代なので、全員が災害時の対応を把握しているわけではない。(民生委員)</p> <p>●いざ火災が発生した場合、消防団がどこまで対応できるかわからない。(第4分団)</p> <p>●豪雨時は橋が水浸しになるなど水害も怖い。(徳倉第6)</p>	<p>◆町内に独立した防災組織を作ってもらいたい。</p> <p>◆市職員も地域の危険個所を把握してほしい。</p> <p>●住民による消火協力が必要。</p> <p>●市には耐震防火水槽の増加と場所の周知、災害データの提供をしてほしい。</p> <p>●水門を新設するよりもきちんと管理してほしい。</p>	<p>自治会</p> <p>市</p> <p>市</p> <p>市</p>	
<p>2. 子どもの健全育成</p>			
<p>①挨拶しあう地域づくり</p>			
<p>○子どもたちは挨拶がよくできているが、これは地域の方の普段の声かけのおかげ。北上小学校では「地域でもあいさつのできる子」を目指している。(北上小)</p> <p>◇スクールガードの存在が大きい。単なる見守りではなく、地域の子とも信頼関係がある。</p> <p>□登下校時の不審者情報も多いので、子どもは警戒感をもっている。特に成人男性から、「子どもに警戒されると声をかけにくくなる」と聞いたことがある。そういうことがなくなればいい。</p> <p>□子ども達よりも、大人の方が挨拶できていない。</p> <p>▲学校周囲の草が伸び、防犯面で危険。</p>	<p>□スクールガードなど地域の大人の見守りが、安全な通学に貢献している。これからも子どもたちを見たら、地域の大人がどんどん声をかけてほしい。</p> <p>◇□挨拶がコミュニケーションのきっかけになっている。日頃からの声かけ、挨拶が大事。挨拶は人と人を結ぶ第一歩。挨拶し合う北上地区になればいいと思う。</p> <p>□地域の挨拶運動に対して、市で何らかのお祝い(奨励賞など)をしてもらえれば、やりがいもあるし張り切って取り組めるのではないかな。</p> <p>○子ども達の良さをもっと伸ばしていきたい。地域の皆でほめてあげてほしい。</p> <p>◆大人が率先して子どもの手本となる行動を示したい。(徳倉第5)</p> <p>▲学校の通学路は、防犯的な面でも市で草を刈ってもらいたい。</p>	<p>校区全体</p> <p>スクールガード</p>	<p>⇒◇スクールガードが子どもの見守りを行い、信頼関係がある。</p>
<p>②子どもと地域の交流</p>			
<p>◇北上地区には子どもの健全育成会があるが、活動内容はわからない。</p> <p>◇町内イベントを、子ども会主体、町内会が応援する形で実施。交流の場が多くある。(萩、萩子ども会)</p> <p>◇◆自治会行事には、必ず中学生ボランティアが入ってくれる。(芙蓉台)</p> <p>○昨年の運動会の参加人数は3,000人ほどだった。運動会に代わるふれあいの行事が必要だがアイデアが出てこない。</p> <p>◇運動会は、少子高齢化でプログラム作りに苦労している。新しいものを取り入れるのは難しい。</p> <p>□体育振興会は、グラウンドゴルフやハイキング等多数の行事を行なっている。一回に250～300人ほどの参加があり、高齢者の方も多く参加。多くの方が参加すればコミュニケーションもとれる。</p>	<p>◇子どもの健全育成は、自分たちで考えて行なうこと。自分たちで仲間を集めて活動を始めれば結果はついてくる。(芙蓉台)</p> <p>◇「子どもは地域の宝事業」について、できれば全員を地域で応援したい。自治会に子どもの情報を教えてほしい。</p> <p>◆中学生ボランティアは頼りになる。中学生を活用すべき。</p> <p>○知らない人同士でも皆で話しができるような行事を考えることが大切。</p> <p>◇できれば運動会の運営等に中学生の参加をお願いしたい。</p> <p>□体育振興会のイベント時に市長に顔を出してもらえないか。一声かけて頂ければモチベーションもあがる。ぜひご協力をお願いしたい。スポーツを通じて北上地区を盛り上げていきたい。</p>	<p>中学生</p> <p>自治会</p> <p>体振会</p>	<p>⇒◆地域行事で中学生が参加。</p>

現況	課題	担い手	結果・実績
③地域と学校の連携			
<p>○日頃から学校職員に授業の中で地域に出るように勤めている。(北上小)</p> <p>◆□地域の方に昔の遊び、野菜作りなどを教えてもらうふれあいがある。子どもたちは色々な方とふれあう中で成長し、地域の方から学ぶ機会があると、自分の住んでいる地域が好きになっていく。(北上小)</p> <p>◆八乙女神社の活動の手伝いなど、地域で役立つことで、子ども達に自己肯定感・有用感が生まれる。成人後の地域への恩返しなど地域の活性化にもつながる。(北上中)</p> <p>◇中学校で校区の各町内会長が集まり、どうしたら中学生が地域とつながりを持てるか話し合った。</p> <p>◇小中学校と連携し、活動を通してふれあいができている。(芙蓉台)</p> <p>◆北上地区は、地域でよく子ども達を見てくれている。子ども達には地域の一員としての自覚を持ち、なるべく地域行事に参加するよう指導している。(北上小・北上中)</p>	<p>○□昔の遊びや野菜作りなど学校の先生より上手な方もいる。そういう方から学ぶ機会を意図的に作ることで、この地域に住んで良かったと思える子どもたちが育っていくと思う。</p> <p>◆地域の教育力を活かすため、地域のお年寄りを招いて話を聞いていきたい。</p> <p>○八乙女神社で新しい取り組みを始めたい。例えば、徳倉区の子どもを神社に集めて、神社の祭典を盛り上げていきたい。(徳倉第6)</p> <p>◆学校と家庭と地域が組んで、子ども達を見ていく姿勢が必要。</p>	<p>小学生</p> <p>中学生</p> <p>校区全体</p>	<p>⇒◆□小学校で地域の方とふれあう機会がある。</p> <p>⇒◆中学生が八乙女神社の活動のお手伝いをした。</p> <p>⇒◇中学校と町内会長で話し合い実施。</p>
<p>◇PTA は地域と学校を結び付ける存在だと思うが、なかなか情報が回ってこない。中学生ボランティアがいることや、登録方法なども知らなかった。(北上中 PTA)</p> <p>◇現役世代は、仕事や子育てなどで会議になかなか参加できない。(北上小 PTA)</p>	<p>◇PTA からも地域活動へ中学生の参加を促せるので、もっと活用して欲しい。</p> <p>◇子どもを持つ家庭と交流をもち、さまざまな会議で子育て世代の意見を伝えて欲しい。</p> <p>◆現役世代と自治会の連絡や、情報共有が必要。(第4分団)</p>	<p>PTA</p> <p>校区全体</p> <p>自治会</p>	
<p>◇市の事業で学校地域支援事業本部を立ち上げる。地域の人に学校の支援をしてもらい、中学校も地域に貢献していく。(北上中)</p> <p>□今年度、北上中に学校支援地域本部実行委員会が設立され、2月から相談会を実施している。地域の教育力を高めることが、学校支援地域本部の最大の目的。</p> <p>◎子どもの教育は学校、家庭、地域で連携していく体制が進んでいる。</p> <p>□中学2年生は職業体験学習を行う。現在、地域の中で体験場所を捜している。農業、建築、介護、幼稚園など、様々な所に声をかけている。</p>	<p>◇学校に地域コーディネーターに入ってもらい、地域との太いパイプ役になってもらいたい。</p> <p>□子どもが身につけるべきこととして、(1)自分の未来を切り開く力、(2)自然環境を考える力、(3)弱者にはいたわりの心、目上の方には敬う心を持つこと、(4)コミュニケーション能力の4点があると思う。子どもたちに上記の能力を身につけさせることが、地域の教育力だと思う。</p> <p>□北上中学校の2年生148名が十分に活躍できる職業体験場所をぜひ地域で開拓したいと思うので、皆様のご協力をお願いしたい。</p>	<p>小学校</p>	

	現況	課題	担い手	結果・実績
3. 高齢者				
①高齢者支援				
	<p>◇1 人暮らしだと、いつ倒れるかわからない不安がある。高齢者が安心できるまちづくりは難しい。</p> <p>◆高速道路下の花壇をお年寄りに手入れしてもらおうというのではないか。</p> <p>◆花壇は自分たちで育苗センターへ行き、手伝いをして苗をもらうようにしている。(芙蓉台)</p> <p>◇1人暮らしの高齢者を訪問すると、孤立している人もいる。</p> <p>◇◆ボランティアの福祉部が15～6年前から、月に一度、公民館で食事会実施。費用は一人百円。お年寄りが野菜を作り、料理は前日から準備するシステムになっている。(芙蓉台)</p>	<p>◇◆お年寄りには多くの経験と知識があるが、活かせる環境に無いのが課題。</p> <p>◇◆高齢者の趣味を活かした芸術祭、シニア文化祭などを実施していきたい。(萩)</p> <p>◇老人会は花いっぱい事業に取り組むなど、テーマを提示してほしい。</p> <p>◇リタイアした高齢者の特技や知識を学校で活かす機会があるといい。</p> <p>◆お年寄りに隣近所の地域コミュニティのリーダーを担ってもらい、地域での存在意義を感じてもらいたい。</p> <p>◎自分達で花壇作りの活動を始めてほしい。花壇は地域の資産価値の維持や、お年寄りの生きがい・きずなづくりにつながる。</p> <p>◆自分達でできることを行っていくといい。</p> <p>◇1 人暮らしの高齢者の訪問ボランティアなどを三島市でもやってほしい。</p> <p>◆市職員がお年寄りの中に入って一緒に行くから続く。ぜひ市職員の方に食事会に参加してほしい。</p>	<p>自治会 老人会</p> <p>老人会</p> <p>小学校 中学校</p> <p>自治会 老人会</p> <p>市</p> <p>市</p>	<p>⇒◆自治会による食事会の継続実施。</p>
②見守りの協力体制				
	<p>◆自治会員に見守りを願っている。</p> <p>◆組長に高齢者の情報を教えてもらっている。(民生委員)</p> <p>◆包括支援センターと組み、問題のあるお年寄りの情報を共有している。</p> <p>◆一人暮らしの高齢者が入院し、自治会、隣近所が協力して庭木を整理した。(徳倉八乙女会)</p> <p>□芙蓉台の芙蓉会では食事会、富士ビレッジでは自治会が中心になりお茶会を実施。また光ヶ丘では、民生委員が中心になり、健康づくりを兼ねて「ほほえみ(歩歩笑)サロン」を実施している。</p>	<p>◆地域で協力して見守りを実施していきたい。</p> <p>◆今後、地域住民の協力が必要になっていく。つながりを深めたい。</p> <p>□各自治会でも、高齢者の集まる場づくりをぜひ検討して頂きたい。協力が必要ならば、包括支援センターに声をかけてほしい。</p> <p>□見守りの協力体制が孤独死の発生抑止につながると考えられる。</p>	<p>校区全体</p> <p>自治会 包括支援センター</p>	
③老人会（シニアクラブ）の存続				
	<p>○徳倉地区では老人会に入っていない高齢者が多い。</p> <p>◇北上地区全体で昔14クラブあったが、今は8クラブと減少した。</p> <p>◇シニアクラブ会員が少ない。1人ずつ声かけして現在30名以上になった。(徳倉第6)</p>	<p>○ぜひ老人会に入会してほしい。</p> <p>○子どもたちとの付き合いをもっと増やしたい。</p> <p>○地域の方との交流を深め、災害時にはお互いに助け合いたい。(徳倉八乙女会)</p> <p>◇会員と声かけや見守りを重点的に行いたい。</p>	<p>老人会 子ども会</p> <p>老人会</p>	<p>⇒◇声かけによる老人会参加者の増加。</p>

現況	課題	担い手	結果・実績
<p>◇徳倉八乙女会は、自治会行事すべてに参加している。自治会を通し子ども会とイベントを実施し、子ども、親と面識が増えた。</p> <p>◇第4分団フェスティバルで、八乙女会に手伝っていただいた。きずなが深まったのが良かった。(第4分団)</p> <p>◇シニアクラブには約90人参加。ダンス、コーラス、フラダンス、詩吟など8つあり非常に活発。芙蓉台の食事会をきっかけに芙蓉会に入り、活動されている方がいる。(芙蓉会)</p>	<p>◇地域とつながりのある老人会でないと新しい方は入ってこない。老人会も積極的に地域行事に参加していきたい。</p>	<p>老人会 自治会 民生委員</p>	<p>⇒◇老人会と自治会、子ども会が連携。</p> <p>⇒◇消防団と老人会が連携。</p> <p>⇒◇食事会がきっかけとなり参加した方がいる。</p>
4. 地域の連携			
①各団体の組織の把握			
<p>◇地域全体の体系図ができていない。地域の中で決まっていること、行政で決まっていることなどを明確にすればすぐ分かる。(スポーツ推進委員)</p> <p>□三島市子ども会連合会に入っている校区は、現在14校区のうち9校区のみ。実は一昨年、北上小学校区も抜けるという話が出たが、本部役員で話し合い、留まってもらった経緯がある。</p> <p>□子ども会の現状は、色々工夫しているが子ども会に入ってくれない家庭が多く困っている。</p>	<p>◇新役員に地域の体系図を示すことができるといい。</p> <p>◆地域活動関係者が議論する場があることが大事。</p> <p>◎子ども会がピンチになっている状況。三島市PTA連絡協議会でPTAからも子ども会活動をサポートしてほしいとお願いしておいた。自治会でも子ども会のサポートをして頂きたい。</p>	<p>自治会 校区全体</p>	
②住人同士の連携			
<p>○組長が変わるとき、役員全員を呼んで引継ぎ会を行っている。他の組では年に一回食事会を行っているようである。(スポーツ推進委員)</p> <p>◇水路掃除で70歳以上を免除している。高齢化により参加者が減少し、地区の環境整備が難しくなっている。(萩)</p>	<p>○町内全体だと規模が大きくなってしまっているので、組ごとに食事会などの活動を行うとよいのでは。</p> <p>○今後は参加者に来てもらうだけでなく、こちらから出向いてニュースポーツ等を紹介したい。</p> <p>◇高齢化による、環境整備への影響が心配。</p>	<p>自治会 スポ推員 校区全体</p>	